

青梅市文化財ニュース

第 2 3 6 号

平成 1 9 年 6 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859）

青 梅 市 内 の 三 峰 講

「三峰信仰」は、埼玉県大滝村（現在の秩父市）に聳^{そび}える標高 1,101m の山頂近くに祀られている、三峰神社に対する信仰である。オオカミ（山犬）を眷属（けんぞく）「大口真神」（おおくちまがみ）とし、これを印刷した護符が害虫・盗難・火難除けとして、霊験あらたかであるという信仰である。江戸時代中期以降、各地に三峰講が結成され、参拝が広まった。

青梅市内でも、昭和 50 年頃まではいくつかの地区で三峰講があったが、最近ではいくつかの講がささやかな催しを行っているにすぎない。そのいくつかを紹介する。

I. 成木七丁目

この地区で三峰講が結成されたのは明治 18 年 2 月に大火災が発生し、常福院を始め多くの民家が罹災したことがきっかけであった。三峰信仰が火難除けとして、霊験あらたかであるということを知った住民たちが、火災が再発しないよう願い、講を組んで信仰を始めたという。当初はほとんどの家が講に加入しており、「大沢入講」（お一ぞうりこう）と称し、昭和 30 年頃でも 20 軒以上が加入していたが、現在では 3 軒のみになってしまった。

当地から、名栗谷や秩父を経て三峰神社までは、片道約 97km の距離である。講中が多かった頃は、交通はまだ不便であったため、代参が一人で、早朝の薄暗い時間に提灯を付けて自宅を出発し、神社には夕方、やっと到着していた。御師宅に一晩世話になった翌日、神社に参拝して御札を授かってから帰路に向かい、講中に御札を配って廻っていた。

3 軒になってしまった現在は、3 軒が輪番で 11 月末頃、代参として三峰神社へ御札を授かりに向く。帰ってから、講中に火除け・盗難除け・害虫除けを祈念した護符と「御眷属」（ごけんぞく）を配って廻る。御札を受け取った講中は、玄関などに護符を張り、「御眷属」は自宅の守り神と一緒に祀る。

II. 梅郷六丁目

講中は、昭和 10 年代には 46 軒であったが、昭和 40 年代には 32 軒まで減少したが、最近では 40 軒前後である。2 名の代参は、代参帳と八坂神社拝殿から下げた眷属（御札）を持参し、三峰神社へ向かう。鉄道が開通する以前は、上郷から榎峠や小沢峠を越え、名栗村を経て秩父へ向かう鎌倉道を辿っていたが、鉄道が開通してからは日向和田駅発の 1 番列車で、八高

線や秩父鉄道を利用して三峰神社参拝するようになった。かつては泊まりがけで、12月3日に代参していたが、それは代参の帰路、秩父の夜祭りを見学するため、代参に当たる者の一つの余得であったという。泊まりがけの代参は、昭和21年が最後である。昭和40年代の後半からは、自動車で代参するようになった。

三峰神社に着いた代参者は、社務所に代参帳を差し出し、持参した眷属（御札）を返納（昭和62年からは御神酒2升を奉納）し、御札料・祈祷料を納入した。神社からは湯茶等の接待を受け、祈祷が終わってから新しい眷属・附札を受け取り、帰路に向かう。

Ⅲ．藤橋二丁目

福富長吉（ちょうきち）氏（安政元年（1854）生まれ、昭和17年7月他界）の祖父にあたる市村吉兵衛氏が始めたと伝えられる。概算すれば、今から約220年前の江戸時代中期の頃である。往時の状況については不明であるが、昭和30年頃の講中は約30軒であった。

11月下旬になると、講元は当番の2名に代参の期日が近づいたことを知らせた。当番になると講中の期待を背負って三峰神社へ向かったが、古くは徒歩で、自転車が普及するようになると自転車で、鉄道が開通すると鉄道を利用して往来したが、帰路には秩父夜祭りを見学することが出来るような日程であった。

代参は三峰神社で参拝をした後、帰路に秩父夜祭りを見学して、地元にとどり着いた。その後、講を開き、簡単な直会なおらいを行った。その席で講中に御札を渡すとともに、割り勘で経費を負担してもらった。各家では、戸口などに三枚の御札を並べて貼り、向こう1年間の除災を願った。講中が少なくなってきたので、昭和48年（1973）に、三峰神社へ御札を返上した。

Ⅳ．成木五丁目

三峰神社の分社は、龍澤山新福寺の背後に聳える稜線上に祀られている。講がいつ頃から行われるようになったかについての詳細は不明だが、平成5年頃、廃止になった。講の世話役は3人程度で、古くは12月の冬至の頃に参拝していたようであるが、昭和60年頃からは4月3日に参拝するようになった。講中は大正2年には20軒であったが、最盛期には40軒前後の数であったと言う。代表は三峰神社に着くと、参拝した後、白い素焼きの小さな杯と、火除け・盗難除け・害虫除けを祈念した3枚の御札を頂いた。代参たちは参拝から帰って来ると、講中の各家々を回り、御札を配り廻った。

このほか、小曾木一丁目・富岡などでも行われているが、詳細は『青梅市文化財保護指導員会活動報告書』（第22号）に掲載される。

（文責 角田 清美）